

# Management Club Report

Apr. 2008/Vol.64

## Monthly Opinion 《勤務医の果たすべき本分》

入院施設を基本的に必要としない歯科は、一般の医科と異なり『大病院』なるものが存在しにくい科目です。このことが、医師に比べて歯科医師の開業率が高い原因の一つとされています。

医科に対して風下に位置づけられがちな歯科の医師にとっては、『大病院』という医科歯科混合組織の中で『サラリーマン的な出世』を目指す道は細過ぎるというわけです。

このように独立独歩を宿命とする風土の中で育つ歯科医師は、どこか屈折しながらも野人的魅力に溢れた職人氣質の人物が多く、独自の道を切り開いていく強かさを持っているように見えます。医師よりも歯科医師の方に、ユニークで面白いタイプのドクターが多い所以ではないでしょうか。

その反面歯科医師は、組織作りは不得手なようです。組織の長であれ構成員であれ、どちらの立場においても目的と役割分担を上手く整備し機能させることが苦手であるのかもしれませんが。つまり良くも悪くも“オレ流”の職人として生きようとする傾向が強いということでしょう。

しかし、これからの社会が求める『新しい歯科医療』の提供は、機能的に組織化された歯科医院が担っていくことになると思いますし、そのような歯科医院でないと生き残り更に発展していくことは難しいのではないかと思います。

と言っても“オレ流”や“職人”が必ずしも悪いわけではありません。反対に医療者が“人任せ主義”や“商売人”であっては困るわけですから、“オレ流”や“職人”を長所の部分で生かしながら『集団の個』を最大限活性化させるようなリーダーシップを発揮していくことを心掛けることが大切です。

今月はそのような観点に立って『歯科医院の勤務医が果たすべき本分』について考えて見たいと思います。

1

### “よき時代”の勤務医の目的と処遇

#### 勤務医の目標

全国には約3万人の勤務歯科医師がいますが、開業率の高い歯科ではその約7割がいずれ開業することを視野に入れ、大学病院か市井の開業医の下で働いています。私たちが接する一般的な勤務歯科医師は、この「いずれ開業するこ